

玉ネギ



育苗

9月下旬～

散水時に使用する ➡

●根っ酵素1000～500倍液 →根を強くし、生長を促進。(間引き後に)

●花咲くCa液1000～500倍 →葉を厚く、充実させ、軟弱徒長を防ぐ。

7～14日間隔で交互に、葉の上からタツプリ散布。(定植3日前)

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
本畑の地力作り	なるべく早い時期に	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g →保水性・保肥性のよい、肥沃な土を作る。 ●堆厩肥1トン以上(なるべく多く) ※もし堆厩肥が無く、米ヌカを使う場合は200kg以上とし、硫酸カリ40kgも加え、定植までに40日以上おく。 ●硫安100～120kg(または尿素50～60kg) ※もし通常の複合肥料なら、チッソ成分20～24kg程度。 ※ポリ・マルチ栽培では追肥が出来ませんから、土作りによく配慮し、チッソ投入量も少なくしないように。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に全面散布、またはウネ上に散布	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大將<青> 60kg ※土壌pHを調節。 ●マンゾク粒状50kg →根張り・生長促進、土壌病害対策。 ※もし特に速く生長させたい場合は、硫安20kgを追加。
[11月中旬] 定植時	定植前後の散水時に	●根っ酵素500倍液 →初期の根張り促進、病害軽減。
[3月～4月迄] 前半～中盤 (外葉が発育し、鱗片葉が形成されて、球が肥大を始める前迄) ここまでは徒長させない!	葉面散布(または灌水) ※通常の栽培では、12～1月と、2月後半に追肥する。これは衰弱を防ぎ、葉数を増やすためだが、カルテック農法を継続すれば、ほぼ不要になる。地力が不十分な心配のある畑は、硫安20kgずつを施す。	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍液 →根の力・生長促進。(タツプリ土まで散布) ※前半は特に土を乾燥させず、持続的に根の力をつけることが大事。 ※根は冬も伸び続け、葉先が枯れずにピンと立つ。 ※地力作りが充分であれば、前半から中盤の生育促進はチッソ肥料ではなく、根の力を強化するだけでOK。 ※半月ごとの定期散布を推奨。農薬には混用を推奨。 ★特に生長が弱い場合や、根腐れの場合は 多めに灌水施用。 ※原液3～10リットルを灌水。(300倍前後) ●アミノ酸液500倍で葉面散布(チッソ補給) ※もし葉色が薄く、肥切れの時に。特に越冬前の栄養充実。ただし中盤までは決してチッソ過多にしない事。チッソが効きすぎると、トウ立ちや 球の肥大不足になる。 ●花咲くCa液500倍→生育を引締め、葉の病害対策。(半月ごと) ※チッソ過多、ベト、疫病、腐敗病が心配な時は、カルシウムを。
[3月～5月迄] 後半(球肥大期)	[収穫45日前頃] 追肥 ※結球開始後すぐに ※同時施用を推奨	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安20～40kg →球の肥大促進、トウ立ち防止。 ※状態により施用量を加減。もし肥料不足の状態なら、やや早めに。 ●畑の大將<青> 20kg →養分転流、球の増糖、品質・貯蔵性を向上。 ※もし土壌pHが酸性で、球肥大が心配な時は特に。
[4月～6月中旬迄] 仕上げ(成熟期)	[収穫20日～15日前] 葉面散布	<ul style="list-style-type: none"> ●花咲くCa液500倍→旨味が増し、品質・日持ちが向上。 ※葉が枯れ、球の肥大が終わった後はチッソ施用や、根を動かす事をしない。

上記は秋蒔き栽培の日程。作型・品種によって時期が違うので、後半の施肥は収穫予定日に合わせて決める事。